

名桜大学での日本語検定の実施と日本語に対する思い ～グローバル化の今だからこそ日本語の足らざるを知ることが大切～

寄稿記事



◆プロフィール

宮城県仙台市生まれ。國學院大學大学院博士課程後期修了。博士(文学)。

専門は国語学、日本語教育。

タイ国立タマサート大学外国人専任講師、財団法人交流協会台北事務所日本語専門家、公立大学法人名桜大学上級准教授を経て、国立大学法人北海道大学国際本部留学生センター准教授。那覇うみそらトンネルを命名。

ここでは、当方の前任校であった名桜(めいおう)大学における日本語検定の取り組みについてのご紹介、そして自己紹介を兼ねた雑感などを記します。

まず、名桜大学について簡単にご紹介いたします。名桜大学は、沖縄県名護市にある公立大学です。沖縄本島北部、いわゆる「やんばる」と呼ばれる地域にある唯一の四年制大学です。1994年に「平和・自由・進歩」を建学の精神として開学し、2014年12月には開学20周年・公立大学となって5周年をむかえます。開学時は私立大学でしたが、建学の精神をそのまま引き継ぎ、2010年4月から公立大学となりました。2014年度の在籍学生数は約2,000名(国際学群が約1300名、人間健康学部が約700名)です。

次に、名桜大学における日本語検定の実施状況についてご紹介いたします。日本語検定は就職活動支援を精力的に行っているキャリア支援課を広報および受付の窓口としています。キャリア支援課が常時学内にポスターを掲示しているほか、4月と10月に行われる学年ごとのオリエンテーションに

おいて日本語検定の受検日・申込期間を一覧にしたものを全学生に配付しています。受検するかしないかは学生の自主性にゆだねられています。受検者数はまだまだ少ないのが実状ではありますが、リピーターが多いのも実状です。現在、2名の教員が日本語検定の担当を務めてくださっていますので、今後ますます多くの学生が受検することと思います。

さて、日本語に関する雑感を少々記したいと思います。日本語を母語とし、日本で生活してきた日本人が自身の日本語について「足らざるを知る」機会を得ることは簡単なようでなかなか得にくいと思います。たとえば、外国人にナチュラルスピードの英語で何かを聞かれ、さっぱりわからなかったら、英語を勉強してみようかと思う動機になることもあるでしょうが、日本人にナチュラルスピードの日本語で何かを聞かれ、さっぱりわからなかったなんていうことはないはず。また、日常生活においてよほどのことがないかぎり、日本語の使い方について指摘されることはないでしょう。とくに、大人になり社会人になれば、人間関係を良好に築いたり保ったり

することに重きが置かれ、「あなたの日本語はここがヘンだよ」と指摘してくれる人はほとんど皆無に近くなるでしょう。大学院在籍時、指導教員に「アナタの文章は下手です」とはっきり言われたことがあります。耳が痛かったのですが、文字どおりなかなかめったにない、ありがたいおことばとしていつも思いだします。その点、日本語検定は本当にありがたいものさしを提供してくれているのではないかと思います。私の師匠は「下手」のひとつことでしたが、日本語検定はあなたのここがこれくらい不足していますよ、とかなり具体的にフィードバックしてくれます。現在、留学生に日本語を教える仕事をしていますが、ある程度の日本語を身につけた留学生には日本語検定にもぜひチャレンジしてもらいたいと思っています。

つらつらと書いてしまいましたが、これだけどこもかしこも国際化、グローバルとさかんに言われている今だからこそ、日本語力の足らざるを正確に知り、磨きをかけていくことも必要なのではないかと思います。その手始めに、日本語検定は有効だと思います。